



● 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会基準日	3月31日
期末配当金基準日	3月31日
公告方法	日本経済新聞
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 電話：0120-232-711(フリーダイヤル)

- (ご注意)
1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 2. 特別口座に記載された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

● 株主優待のご案内

昨年新設の株主優待制度は、今年も株主の皆様からの日頃のご支援への感謝の印として引き続き実施いたします。

● 株主優待の内容

対象株主	毎年基準日(3月31日)現在で当社株式1単元(1,000株)以上所有の株主様
優待の内容	5,000円相当の当社製品(缶詰セット)贈呈
贈呈時期	毎年7月予定

WEBサイトのご案内



ニュース&トピックスのトップページから会社案内、IR情報、製品紹介のほか、キョクヨーグループの最新情報を掲載しています。また、皆様のご意見や質問をお受けする『お問い合わせ入力フォーム』も用意しておりますので、是非ご利用ください。さらに、今年5月にIR情報サイトを「わかりやすさ、見やすさ、使いやすさ」をモットーにリニューアルしました。個人投資家の皆様向けの内容も充実しましたのでご愛用をよろしくお願いいたします。

<http://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー

BUSINESS REPORT

第87期 報告書

2009年4月1日 ▶ 2010年3月31日



いつも となりに
おいしいキョクヨー



株式会社 極 洋
〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号



企業理念

人間尊重を経営の基本に、
健康で心豊かな生活と食文化に貢献し
社会とともに成長することを目指します。



ご挨拶

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第87期(2010年3月期)報告書をお届け致します。

キョクヨーグループは水産物を主体とした総合食品企業を目指し、グローバル戦略と加工戦略の大方針の下、一層の安定収益確保を図って参りますので、株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月 代表取締役社長 福井 清計

グループ5事業を柱に それぞれの独自性と強みを発揮し 収益の確保を図ります。

Q 当期(2010年3月期)の概況についてお聞かせください。

当期は、世界経済が一昨年のリーマンショックから緩やかな景気回復基調にある中、国内ではデフレの進行や雇用所得環境の悪化から生活者の生活防衛意識が強まり、消費者の低価格・節約志向が浮き彫りになった1年でした。

水産商事事業では当期前半は北洋魚の取扱い減少や高価格品のカニ等の販売が伸び悩みましたが、後半は適時適量買付が功を奏すとともに、年末商戦などで値頃感の出たエビやカニの販売が好調に推移しました。

加工食品事業では、寿司関連商材や、消費者の内食志向による缶詰需要から魚介缶詰を主体に拡販を進め、調理冷凍食品における高単価商品の販売不振を補完しました。

鰹・鮪事業では、国内外からの鮪買付、加工販売が1年を通して順調に推移し、売上、利益とも計画を上回りました。本鮪養殖事業を営むキョクヨーマリンファーム(株)では40kg超に育った本鮪を「本鮪の極」ブランドで初出荷し、お取引先様から高い評価を頂きました。一方、カツオを中心に漁獲する海外まき網事業は漁獲数量減と単価下落により所期の利益を確保出来ませんでした。

また、物流サービス事業でも、冷蔵運搬船事業において世界的な荷動き停滞から運賃市況は低迷し、円高傾向も相まって利益確保に苦労しました。

以上のことから、キョクヨーグループ全体では売上、利益とも前年度を下回る結果となりました。

Q 当期特に注力された取組みについてお聞かせください。

グローバル戦略、加工戦略の更なる推進を念頭に、また、鰹・鮪事業を水産商事、加工食品事業に続く第3の柱とするべく取組みました。

水産商事事業では、海外ネットワークを駆使した良質な水産物の安定的な供給と加工品の開發生産、販売に積極的に注力しました。

加工食品事業では、引続きタイの合弁会社K&U Enterprise Co.,Ltd.(以下KUE社)を基幹工場に、キョクヨーグループの戦略商品である寿司関連商材の拡販に努めました。海外向けの冷凍寿司の販売は欧米を中心に前年度比倍増の結果を得ることが出来ました。また、ロングセラーのかに風味かまぼこ「オーシャンキング」ではタラバガニの脚肉をイメージした高級感のある『オーシャンキングの極』を発売しました。加えて、タイで生産した価格面でも競争力に優れたツナ缶詰の販売を伸長させました。

さらに、鰹・鮪事業では国産養殖本鮪が初出荷、最新鋭の大型海外まき網船が竣工し、これから一層貢献してくれることを期待しています。

新製品開発では、安心・安全な商品の提供を万全の品質管理体制で担保しつつ、中国、東南アジアでの海外生産品も増やしています。

消費者の安心・安全な商品提供の要望は引続き強いですが。

ここ2、3年の国内食品業界における安心・安全にかかわる事件や不祥事の影響は、幾分沈静化していますが、当社は従来にもまして万全な品質管理体制の構築に努めています。

2009年4月より中国の青島駐在員事務所内に「中国食品安全管理室」を設置し、中国の協力工場で生産される当社製品の安全と品質管理強化を図っています。また、中国をはじめタイ、ベトナムなどには、品質管理専任スタッフを配置、本社品質保証部指導のもと研修や講習会を適宜実施し、さらに国内外の協力工場と綿密に

情報交換や連携をとり品質管理体制の強化に努めています。

来期(2011年3月期)の計画についてお聞かせください。

来期は、中期経営計画『キョクヨーグループ チャレンジ2012』の2年目に当たりますが、期首より加工食品事業を冷凍食品、常温食品の2つの事業に分けて管理し、5つの事業セグメントを柱に安定収益確保に邁進してまいります。

加工食品事業を各々独立させたのは、生産・流通・販売において低温と常温に分けて管理した方が、各々の事業拡大にプラス効果があると判断したからです。水産商事事業から独立した鰹・鮪事業のように、冷凍食品事業と常温食品事業の更なる飛躍を目指して行きたいと思っています。

水産商事事業では、永年培ってきた魚のプロとしてのノウハウを駆使して国内外から水産物を買付し、原料のみならず水産加工品としての拡販にも一層注力してまいります。



また、販売力に見合った適時適量買付を通じて在庫管理を徹底します。

さらに、海外現地法人、駐在員事務所を活用して日本はもとより北米、欧州、東南アジア等へ更なる拡大を図ります。

冷凍食品事業における水産冷凍食品では、回転寿司チェーンをはじめ寿司種 NO.1 サプライヤーを目指すべく、寿司関連ビジネスの拡大発展を当社グループの戦略として取組みます。

調理冷凍食品では、国内直系工場の主力商品であるオーシャンキング、えびフリッター、クリーミーフライ、グラタン等、海外生産の水産フライ、豚・鶏肉製品の拡販を図ります。

新たに事業として独立させた常温食品事業は、取り扱いの大きい水産缶詰が、最近おかず缶詰として脚光を浴びています。ベーシックなツナ缶詰などの拡販に力

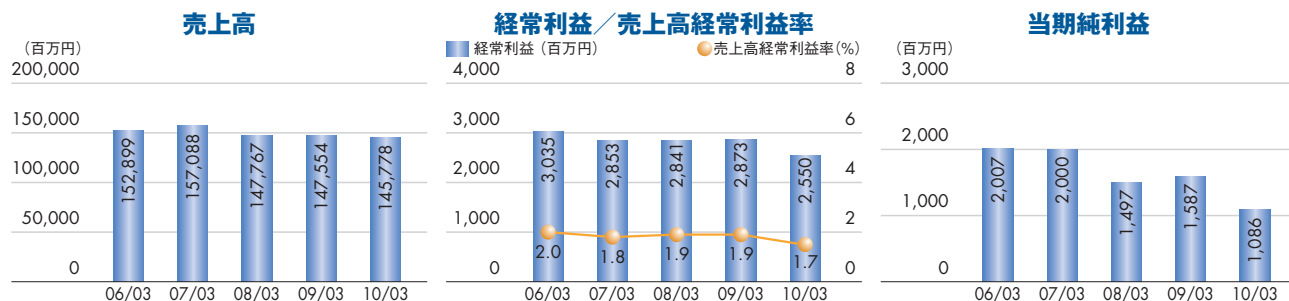
を入れるとともに、(株)ジョッキの海鮮珍味製品の販路拡大にも努めてまいります。

物流サービス事業では、冷蔵倉庫事業においては貨物の積極的な集荷に努め、冷蔵運搬船事業では海運市況の回復が遅れる中、基本船隊の事業環境に即した効率的配船により収益の確保に努めます。

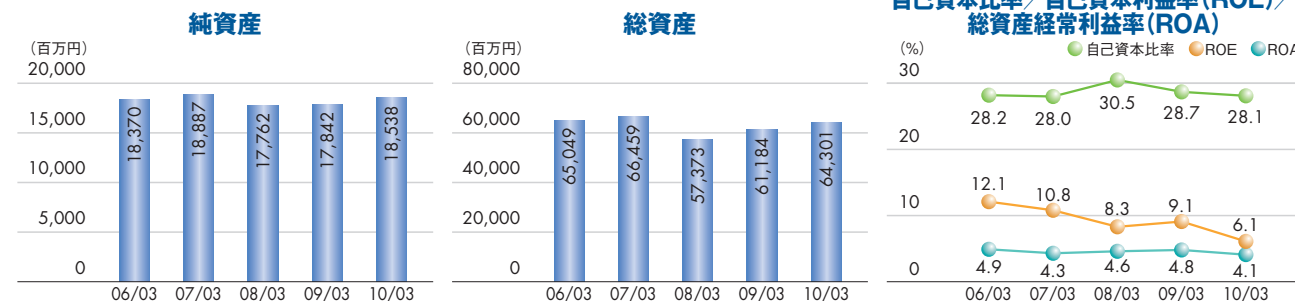
鰹・鮪事業は、当期収支に貢献した蓄養インド鮪・本鮪等の買付、販売に注力して安定利益確保へつなげます。当期から出荷が始まった国産の養殖本鮪は、国際的な資源管理が強化される中、育てる漁業として今後も生産・販売体制を増強してまいります。さらに、カツオの漁獲を主体とする海外まき網事業は、当期に大型最新鋭船を導入しましたが、今後とも効率化を図り収益確保に努めてまいります。

以上により、来期の連結業績は売上1,550億円、営業利益30億円、経常利益28億円、当期純利益15億円を見込んでおります。

主な連結財務指標



FINANCIAL HIGHLIGHT



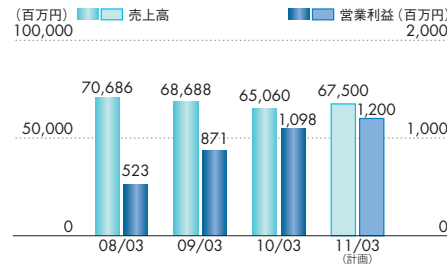
水産商事事業 売上構成比 44.6%

売上高 65,060百万円
営業利益 1,098百万円



水産商事事業は国内の支社、営業所、海外関係会社や駐在員事務所が連携したグローバルネットワークにより、世界の海から安定的に調達した豊かな水産物を、素材の供給のみならず国内外の協力工場で加工し様々なニーズに合った製品を提供しています。

また、日本国内で漁獲された魚介類の欧米やアジアなどへの輸出や三国間貿易など海外への販売も積極的に行い、魚食のグローバル化にも対応していきます。

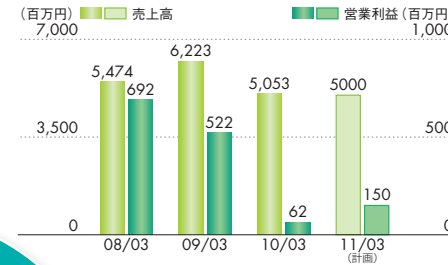


物流サービス事業 売上構成比 3.5%

売上高 5,053百万円
営業利益 62百万円



東京・大阪・福岡の3拠点を持つキョクヨー秋津冷蔵(株)による冷蔵倉庫事業と様々な食品を世界中に運搬している極洋海運(株)の冷蔵運搬船事業は、ともに蓄積されたノウハウをもってお客様の大切な荷物の保管、輸送を行っています。



加工食品事業 売上構成比 38.0%

売上高 55,346百万円 営業利益 856百万円



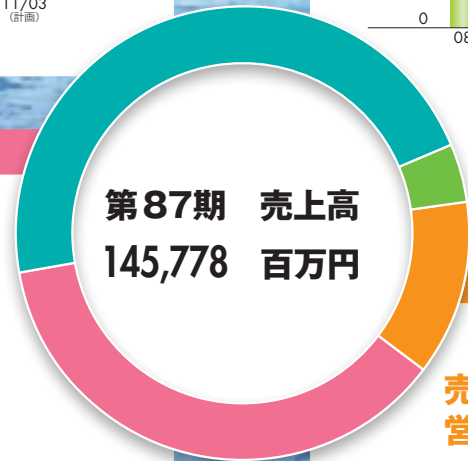
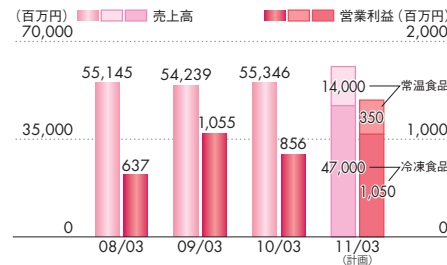
加工食品事業は水産冷凍食品・調理冷凍食品・常温食品の3事業で構成され、水産物や畜産品等、様々な食材をニーズに合わせて加工しお客様に提供しています。

水産冷凍食品事業の主力製品である寿司種製品を回転寿司などの外食産業向けに販売しています。また焼魚・煮魚などの加熱加工品も幅広く扱っており、量販店・レストラン向けに販売しています。

調理冷凍食品事業は水産フライ類やかに風味かまぼこをはじめ、畜肉製品・冷凍野菜などを量販店の惣菜売場や外食産業および学校給食向けに販売しています。女子栄養大学との産学協同による医療福祉給食向け製品開発など、将来を見据えた新製品開発にも注力しています。

常温食品事業はさけ・ツナ・ほたてなどの魚介缶詰や、「グルコサミン」といった健康食品、関係会社(株)ジョッキの海鮮珍味など多岐に渡るラインアップで、美味しさと健康をお届けしています。

(なお、2010年4月から加工食品事業は、冷凍食品と常温食品の2つの事業に分けて管理いたします。詳細はトップインタビュー3~4ページをご参照ください。)

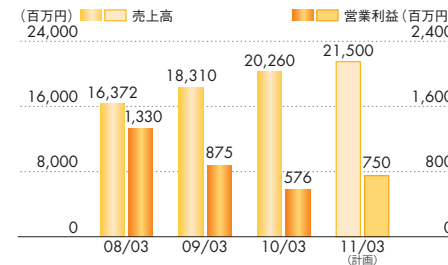


鯉・鮪事業 売上構成比 13.9%

売上高 20,260百万円
営業利益 576百万円



鯉・鮪事業では良質のかつお・まぐろの漁獲、買付、養殖、生産から加工、販売まで一貫した事業を展開しています。極洋水産(株)では最新の設備を備えた海外まき網船4隻で、中西部太平洋および東沖においてかつおを漁獲しています。自社での漁獲や世界各地から買付したかつお・まぐろは、極洋水産(株)大井川工場をはじめ国内外の協力工場で加工し付加価値を高めた製品として出荷されています。



TOPICS

! 国内養殖本鮪 「本鮪の極」出荷開始

2009年9月、高知県宿毛市のキョクヨーマリンファーム(株)にて豊かな自然環境の中で手塩にかけて育てた「本鮪の極」が初出荷となりました。

本鮪養殖事業は2007年7月より開始され、以来初年度活け入れ分のヨコワが40kg超のサイズにまで成長し、出荷の運びとなりました。

今後も現在の生簀の増設や宿毛湾以外の地域に新たな養殖場を設置する計画を進め、養殖事業の拡大に努めてまいります。



! 「第七わかば丸」竣工

極洋水産(株)が、(株)三保造船所にて建造した海外まき網船「第七わかば丸」は、2009年10月に竣工しました。

同船は国際競争力を確保するために現行の349トン型に比べ大型化(760トン型)されました。また、操業効率、燃費効率の向上、小型魚混獲回避のための漁網使用等々の資源に優しい漁業の実証実験を行うとともに、良質なカツオの安定供給に努めつつ、順調な操業を続けています。



! “スモークサーモン”が 2009モンドセレクション金賞を受賞

2009年6月、当社製品である“スモークサーモン”のスライスおよびカットの2品が、2009モンドセレクション金賞をダブル受賞しました。

スモークサーモンは「本格的なスモークサーモンを刺身感覚で食べてほしい」とのコンセプトにより開発されました。原料は鮮度・身質・身色にこだわったチリ産トラウトを吟味し、添加物を使用せず、塩分濃度を2%に抑えた減塩タイプで、KUE社にて徹底した衛生管理のもとに製造しています。

このような名誉ある賞を受賞できたことは誠に光栄であり、当社製品の品質の高さをアピールできるものです。



! 「タイランド・ベスト・フレンド賞」を受賞

2009年8月、当社は寿司関連商材をはじめとしたタイ国水産加工品の輸入に貢献したとしてタイ国政府商務省が創設した「タイランド・ベスト・フレンド賞」を受賞しました。

この賞は農水産品をはじめタイ国産品の輸入促進を目的として外国企業を対象に表彰するもので、当社はタイの有力取引先であるユニオン・フローズン・プロダクツ社(UFP社)の推薦を受け受賞したものです。

TOPICS

！ 寿司関連事業の更なる強化

当社の強みである寿司関連事業は、今後とも拡大発展させるために経営資源を集中してまいります。KUE社で生産する寿司種や冷凍寿司はアイテム充実と品質強化を図り、国内のみならず欧米向けに販路を拡大しています。

「ヤリイカハーフ」のカット、スライスといった新製品を投入しお客様から好評をいただいております。回転寿司チェーン店や量販店向け寿司種のNO.1サプライヤーを目指します。



！ 社会・環境報告書2009発刊

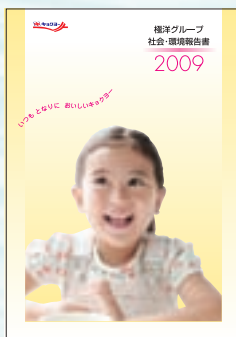
2009年9月、「極洋グループ 社会・環境報告書2009」を発行しました。

これは、2001年12月以来、当社グループが取り組んでいる環境保全活動の成果や社会的活動を盛り込んだもので、今回3回目の発行です。

同報告書は当社グループが社内・外と対話する際に企業としての思いや実際の取り組みなどを伝え、広くコミュニケーションするためのツールとしての役割を担っています。

今後とも、当社グループ環境経営の更なる充実を図り、社会から信頼と期待に応えられるよう努めてまいります。

※当報告書の内容は当社ホームページでもご覧いただけます。▶ <http://www.kyokuyo.co.jp/environment/>



！ ホームページIR情報サイトをリニューアル

このたび、当社ホームページのIR情報サイトをリニューアルしました。投資家の皆様にとって会社の概要をより分かりやすく伝えるサイトを目指し、メインメニューの改善や個人投資家向けサイトを新設しました。

これからも、皆様に親しまれるサイト構築を進めてまいります。

▶ <http://www.kyokuyo.co.jp/ir/index.html>

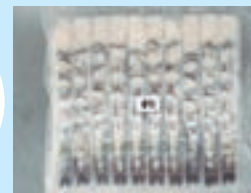


商品情報

MERCHANDISE INFORMATION

当社グループが販売している商品の一部をご紹介します。
当社商品は業務用が中心ですが、常温食品など一部は市販用としてお買い求めいただけます。

水産
加工品



一本勝負(ブラックタイガー伸ばし海老)

凍結方法の工夫により海老が潰れず本来の食感が楽しめます。完全に解凍せずに粉付け等の処理を行い、そのまま油での調理を行うことにより、プロの技のようにまっすぐに仕上がります。

水産冷凍
食品

寿司種各種

寿司種はKUE社を生産拠点の中心に、えび、いか、サーモンなど新鮮な原料を使用し、そのまま解凍するだけで本格的な寿司種になります。また、豊富な商品群は彩りもよく、さまざまな商品を組み合わせただけで豪華な寿司盛を演出できます。



調理
冷凍食品



オーシャンキングの極

高品質のすり身を使用し、タラバガニの脚肉をイメージして仕上げました。ジューシーな味わいと繊維感のあるオーシャンキングです。
5本入りトレーパックや天ぷら用もあります。

常温食品

ライトフレーク(かつお油漬フレーク)

季節の野菜やお好みの調味料を使用してツナサラダ、ツナサンド、コロッケ、チャーハン、野菜炒め等に幅広くご利用いただけます。



鯉・鮪
製品



本鮪の極

高知県・宿毛の穏やかで清らかな海ですくすくと育ちました。当社独自に構築した養殖技術を活かした自信作です。

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 2010年3月31日現在	前連結会計年度 2009年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	44,953	43,752
固定資産	19,347	17,432
有形固定資産	11,568	10,231
無形固定資産	616	683
投資その他の資産	7,162	6,517
資産合計	64,301	61,184
【負債の部】		
流動負債	38,637	37,594
固定負債	7,125	5,747
負債合計	45,763	43,341
【純資産の部】		
株主資本	18,391	17,839
評価・換算差額等	△339	△304
少数株主持分	485	307
純資産合計	18,538	17,842
負債純資産合計	64,301	61,184

連結貸借対照表のポイント

流動資産 (前期比12億円増加)

- 現金及び預金、受取手形及び売掛金は減少しましたが、商品及び製品が増加したことなどにより前期比12億円増加しました。

固定資産 (前期比19億円増加)

- 海外まき網船の建造などによる「有形固定資産」の増加13億円、投資有価証券の取得などによる「投資その他の資産」の増加6億円などにより、固定資産合計は前期比19億円増加しました。

流動負債 (前期比10億円増加)

- 運転資金の増加などによる「短期借入金」の増加を主な要因として前期比10億円増加しました。

固定負債 (前期比13億円増加)

- 海外まき網船など設備投資による長期借入金の増加や退職給付引当金の増加を主な要因として前期比13億円増加しました。

純資産 (前期比6億円増加)

- 当期純利益の10億円に対して配当金の支払で5億円、少数株主持分が1億円増加したことなどにより、純資産は前期比6億円増加しました。

連結株主資本等変動計算書 当連結会計年度(2009年4月1日から2010年3月31日まで) (単位:百万円)

	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	5,664	749	12,037	△611	17,839	△244	8	△69	△304	307	17,842
当期変動額											
剰余金の配当			△529		△529						△529
当期純利益			1,086		1,086						1,086
自己株式の取得				△0	△0						△0
自己株式の処分		0		0	0						0
その他			△5		△5						△5
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△89	15	38	△34	178	143
当期変動額合計	—	0	552	△0	551	△89	15	38	△34	178	695
当期末残高	5,664	749	12,589	△612	18,391	△333	24	△30	△339	485	18,538

連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前連結会計年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
売上高	145,778	147,554
売上原価	127,927	129,849
売上総利益	17,851	17,704
販売費及び一般管理費	15,670	14,722
営業利益	2,180	2,981
営業外収益	769	410
営業外費用	399	519
経常利益	2,550	2,873
特別利益	8	25
特別損失	385	38
税金等調整前当期純利益	2,173	2,860
法人税、住民税及び事業税	1,204	1,553
法人税等調整額	△281	△272
少数株主利益又は損失(△)	164	△8
当期純利益	1,086	1,587

連結損益計算書のポイント

営業利益 (前期比8億円減少)

- 売上高は加工食品事業、鯉・鮪事業では前期実績を上回りましたが、水産商事事業、物流サービス事業で前期実績を下回り、全体では前期比1.2%減となりました。
- 営業利益は、水産商事事業において前期を上回りましたが、他のセグメントは前期を下回り、全体では前期比26.9%減となりました。
- 営業利益率は1.5%と前期(2.0%)を下回りました。

経常利益 (前期比3億円減少)

- 営業外収益は受取配当金増や外国為替差益増により前期実績を上回り、営業外費用は支払利息の減により前期を下回りました。
- 経常利益は前期比11.2%減となりました。
- 経常利益率は1.7%と前期(1.9%)を下回りました。

当期純利益 (前期比5億円減少)

- 特別損失の主なものは投資有価証券の売却損です。
- 当期純利益は前期比31.6%減となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前連結会計年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,326	2,346
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,515	△2,202
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,142	799
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	△71
現金及び現金同等物の増減額	△1,035	870
現金及び現金同等物の期首残高	3,707	2,836
現金及び現金同等物の期末残高	2,672	3,707

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

営業活動によるキャッシュ・フロー (前期比20百万円減少)

- 23億円の収入となりました。主な増加要因は税金等調整前当期純利益及び減価償却費、売上債権の減少によるものです。主な減少要因はたな卸資産の増加、法人税等の支払によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー (前期比23億円減少)

- 固定資産や投資有価証券の取得及び貸付による支出などにより45億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー (前期比3億円増加)

- 短期借入金の増加、長期借入などにより11億円の収入となりました。

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当事業年度 2010年3月31日現在	前事業年度 2009年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	38,847	37,536
固定資産	12,438	11,972
有形固定資産	3,048	3,032
無形固定資産	412	489
投資その他の資産	8,977	8,450
資産合計	51,285	49,508
【負債の部】		
流動負債	33,750	33,282
固定負債	3,677	2,882
負債合計	37,428	36,164
【純資産の部】		
株主資本	14,367	13,781
評価・換算差額等	△509	△437
純資産合計	13,857	13,343
負債純資産合計	51,285	49,508

損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当事業年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前事業年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
売上高	133,674	135,400
売上原価	118,183	120,990
売上総利益	15,491	14,410
販売費及び一般管理費	13,610	12,738
営業利益	1,880	1,671
営業外収益	641	488
営業外費用	257	406
経常利益	2,265	1,753
特別利益	0	1
特別損失	327	2
税引前当期純利益	1,937	1,752
法人税、住民税及び事業税	1,115	1,005
法人税等調整額	△292	△320
当期純利益	1,115	1,068

株主資本等変動計算書

当事業年度(2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本								自己株式	株主資本 合計	評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			資本準備金	自己株式			その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
	資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金 合計							
前期末残高	5,664	742	7	749	673	1,560	5,745	7,979	△611	13,781	△446	8	△437	13,343
当期変動額														
剰余金の配当			—		△529	△529	△529	△529						△529
当期純利益			—		1,115	1,115	1,115	1,115						1,115
自己株式の取得			—		—	—	—	—	△0	△0				△0
自己株式の処分			0	0	—	—	—	—	0	0				0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			—		—	—	—	—	—	—	△88	15	△72	△72
当期変動額合計	—	—	0	0	—	—	586	586	△0	585	△88	15	△72	513
当期末残高	5,664	742	7	749	673	1,560	6,331	8,565	△612	14,367	△534	24	△509	13,857

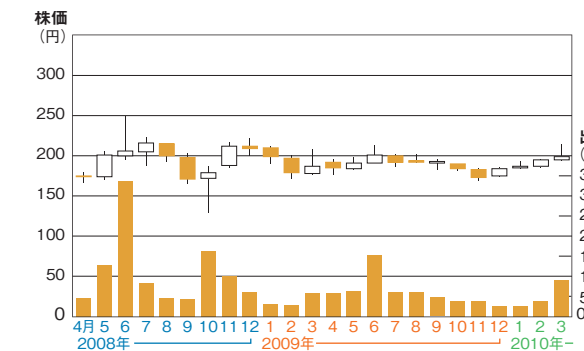
会社概要 2010年3月31日現在

社名	株式会社 極洋																										
英文社名	KYOKUYO CO., LTD.																										
本社所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号																										
設立	1937年9月3日																										
資本金	56億6千4百万円																										
主要な事業内容	水産物の輸出入・国内買付販売、 加工食品及び冷凍食品の製造販売																										
従業員数	2,909名(連結) 531名(個別)																										
連結対象会社数	16社																										
役員 (2010年5月31日現在)	<table border="0"> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>福井清計</td> </tr> <tr> <td>専務取締役</td> <td>多田久樹</td> </tr> <tr> <td>専務取締役</td> <td>門田憲一</td> </tr> <tr> <td>常務取締役</td> <td>久井光太郎</td> </tr> <tr> <td>常務取締役</td> <td>今井賢司</td> </tr> <tr> <td>常務取締役</td> <td>須藤時廣</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>村上吉男</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>荒砥誠</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>神保重徳</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>上居隆</td> </tr> <tr> <td>常勤監査役</td> <td>菊田高隆</td> </tr> <tr> <td>常勤監査役</td> <td>細川高稔</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>千倉信夫</td> </tr> </table>	代表取締役社長	福井清計	専務取締役	多田久樹	専務取締役	門田憲一	常務取締役	久井光太郎	常務取締役	今井賢司	常務取締役	須藤時廣	取締役	村上吉男	取締役	荒砥誠	取締役	神保重徳	取締役	上居隆	常勤監査役	菊田高隆	常勤監査役	細川高稔	監査役	千倉信夫
代表取締役社長	福井清計																										
専務取締役	多田久樹																										
専務取締役	門田憲一																										
常務取締役	久井光太郎																										
常務取締役	今井賢司																										
常務取締役	須藤時廣																										
取締役	村上吉男																										
取締役	荒砥誠																										
取締役	神保重徳																										
取締役	上居隆																										
常勤監査役	菊田高隆																										
常勤監査役	細川高稔																										
監査役	千倉信夫																										

株式の概況 2010年3月31日現在

発行可能株式総数	437,000,000株	
発行済株式の総数	109,282,837株	
株主数	19,501名	
大株主	株主名	持株数(千株) 出資比率(%)
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	7,188 6.57
	三井住友海上火災保険株式会社	5,701 5.21
	株式会社りそな銀行	5,234 4.78
	農林中央金庫	4,450 4.07
	東洋製罐株式会社	3,150 2.88
	東京海上日動火災保険株式会社	2,245 2.05
	カップ・クリエイト株式会社	2,100 1.92
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,754 1.60
	極洋秋津会	1,470 1.34
	中央魚類株式会社	1,399 1.28

株価及び出来高の推移



所有者別株式数分布状況

